

■スポーツ健康科学部 2026年度入試概要 (予定)

※以下の入試概要は変更される場合があります。詳細は入学試験要項 (AO選抜：6月下旬、一般選抜：10月下旬発行予定) で確認してください。

募集人数 235名 ※募集人数は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜等の合計です。 Webからダウンロード可能 立命館 入試情報サイト 検索

入試方式		試験科目・概要	試験地
総合型選抜	AO選抜	グローバル・アスレティックトレーニング型 教員熱望型 課題発見・解決 UNITE Program型 数学的素養 UNITE Program型	びわこ・くさつ キャンパス
	CREA方式	【第1次選考】書類選考 【第2次選考】プレゼンテーション、個人面接	
一般選抜	全学統一方式 (文系)	【外国語】(配点: 120点) 英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III) 【国語】(配点: 100点) 現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究(漢文の独立問題は出題しません) 【選択科目】(配点: 100点) 政治・経済、日本史(日本史探究)、世界史(世界史探究)、地理(地理総合・地理探究)、数学(数学I、数学II、数学A、数学B(数列)、数学C(ベクトル))から1科目選択	① ② ③
	理系型3教科方式	【外国語】(配点: 150点) 英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III) 【数学】(配点: 150点) 数学(数学I、数学II、数学A、数学B(数列)、数学C(ベクトル)) 【理科】(配点: 100点) 物理(物理基礎、物理)、化学(化学基礎、化学)、生物(生物基礎、生物)から1科目選択	
	学部個別配点方式文系型	【外国語】(配点: 150点) 英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III) 【国語】(配点: 150点) 現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究(漢文の独立問題は出題しません) 【選択科目】(配点: 100点) 政治・経済、日本史(日本史探究)、世界史(世界史探究)、地理(地理総合・地理探究)、数学(数学I、数学II、数学A、数学B(数列)、数学C(ベクトル))から1科目選択	
	学部個別配点方式情報型 (文系)	【外国語】(配点: 100点) 英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III) 【国語】(配点: 100点) 現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究(漢文の独立問題は出題しません) 【情報】(配点: 120点) 情報	① ③
	共通テスト併用方式	【外国語】(配点: 100点) 英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III) 【国語】(配点: 100点) 現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語(いずれも近代以降の文章のみ) 【大学入学共通テスト受験科目】(配点: 100点) 数学、公民、地理歴史、理科から高得点1科目を採用	
	後期分割方式	共通テスト併用3教科型 【外国語】(配点: 100点) 英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III) 【国語】(配点: 100点) 現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語(いずれも近代以降の文章のみ) 【大学入学共通テスト受験科目】(配点: 100点) 数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点1科目を採用	①
共通テスト方式	7科目型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点: 合計900点) 外国語、国語、数学(配点: 各200点、合計600点)と公民、地理歴史、理科、情報から高得点3科目を採用(配点: 各100点、合計300点)	大学入学共通 テストの得点 のみで判定
	5教科型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点: 合計700点) 外国語、国語(配点: 各200点、合計400点)と数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点3科目を採用(配点: 各100点、合計300点)	
	3教科型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点: 合計600点) 外国語(配点: 200点)と国語、数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点2科目を採用(配点: 各200点、合計400点)	
共通テスト方式(後期型)	4教科型 【大学入学共通テスト受験科目】(配点: 合計600点) 外国語、国語(配点: 各200点、合計400点)と数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点2科目を採用(配点: 各100点、合計200点)		
試験地		①埼玉(大宮)・東京(横浜・金沢・名古屋・滋賀(草津))・京都(大阪茨木・大阪南・神戸)・広島・高松・福岡・大分 ②札幌・仙台・福井・和歌山・松江・山口・松山・北九州・熊本・鹿児島 ③千葉(柏)・静岡(浜松)・三重(姫路)・岡山	

※各入試方式の出題範囲等は、入学試験要項で確認してください。

2026年度の入学試験に関する最新の情報・入試日程については右記のURL(立命館大学入試情報サイト)より確認してください。

<https://ritsnet.ritsumeiji.jp/>



▶立命館大学スポーツ健康科学部公式WEBサイト

<https://www.ritsumeiji.ac.jp/shs/>



立命館 スポーツ健康科学部 検索

x.com/spoken_rits/
学部イベントや受験生向け情報などの最新情報を随時発信しています

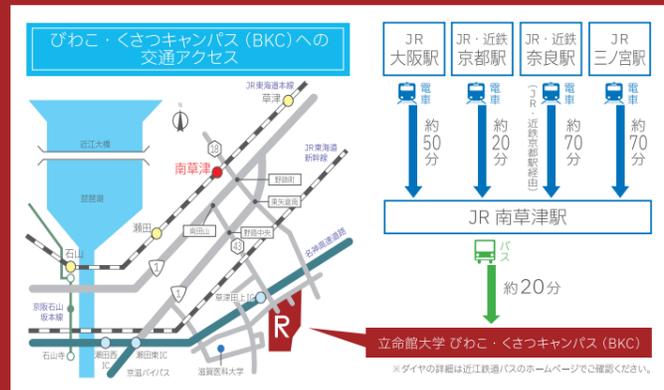


<https://www.facebook.com/rits.spoken/>
スポーツ健康科学部の日常をご紹介します



+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学
RITSUMEIKAN UNIVERSITY

〈お問い合わせ〉
びわこ・くさつキャンパス
BKC学部・研究科事務室(スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科教育課程支援)
〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1
TEL. 077-561-3760



スポーツ 健康科学部

Ritsumeikan University College of
Sport and Health Science

2026



Collaboration
Resiliency
Edge
Attraction

健康と幸福、世界の平和を探究する

「スポーツ健康科学」

スポーツ健康科学部では「ひと」が健康的で豊かに暮らすことを実現するため、生物学的な「ヒト」の最小単位である細胞や遺伝子から、臓器、人体、さらに「人」の集合体である集団まで、社会の幅広い課題について、多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導き、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造することを目指します。

スポーツサイエンス領域

科学と実践の融合を通じた スポーツパフォーマンスの向上

スポーツパフォーマンス向上に資する生理学 / 生化学 / 力学 / 工学領域の最先端知見やその融合について学びます。スポーツパフォーマンスの向上に資する専門的知識と実践力を身につけ、加えて他領域の学びとの連携の中でスポーツ健康科学の未来を拓きます。

健康運動科学領域

身体活動を通じた人々の幸福、 豊かな生活の実現

人々の幸福、豊かな生活を実現する上で「礎」となる健康科学の理論と実践を担う学問領域です。健康の維持・増進に関する運動・身体活動や栄養の効果およびメカニズムを学んだ上で、個人や地域社会における健康問題、健康ニーズを把握し、人々の生活の質（QOL）の向上や疾病および傷害予防に貢献します。

4つの領域を横断し 学際的に学ぶ



スポーツ教育の現・場から、 人と社会を共に育む

文化・歴史・哲学・倫理等の人文学とスポーツ教育学・コーチング学・スポーツ心理学・栄養スポーツ教育学等の社会科学におけるスポーツ教育学分野に関する理論や最新の知見を学びます。スポーツ教育の実践を基盤としながら、人と社会を他者や他分野と共に育みます。

つながる・つなげるマネジメント

社会や組織、スポーツ、人がつながり合う・紡ぎ合うために必要な哲学・考え方や戦略について学びます。新しい社会や組織のあり方、そしてスポーツの新展開を「創造」し、それを「発信・実現」します。

スポーツ教育学領域

スポーツマネジメント領域

MESSAGE FROM DEAN



立命館大学
スポーツ健康科学部 学部長
真田 樹義

スポーツ健康科学は、スポーツと健康を融合した学問です。スポーツは様々な競技スポーツだけではなく、ウォーキング、筋トレ、ストレッチなどのエクササイズ、中学・高校での体育の授業やパーソナルトレーニング、スポーツ観戦なども含まれます。一方、健康は「からだ」と「こころ」、「社会とのつながり」のより良い状態（ウェルビーイング）です。ウェルビーイングは世界の人々の全員の願いであり、生きがいや幸福の土台となるものです。つまり、スポーツ健康科学部は「スポーツを通じて人々を幸せにする」学部といえます。本学部での学びを通じて、社会課題の発見・解決に挑戦してください。皆さんの未来を大いに期待しています。

学部ビジョン

“CREA”に込める想い…

スポーツ健康科学部では、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造し、志高く未来を拓く人を育てたいと考えています。そのため、学部では、“CREA”というビジョンを掲げて、皆さんのキャンパスライフにおける様々な学修活動を推進する方向性を示しています。“CREA”とは、「産む、創造する、引き起こす」などの意味をもったラテン語“creare（クレアーレ）”を語源にもつ現代イタリア語で「創造」を意味する言葉です。それぞれの頭文字には、“Collaboration（異分野を紡ぐ）”“Resiliency（主体的に挑む）”“Edge（智を極む）”“Attraction（ひとと組織が輝く）”という想いが込められており、皆さんには、“CREA”を体現できる人になってもらいたいと思います。



普通に生活するだけで
体脂肪も血糖値も下がる
アスリートの競技能力を向上させてきた
低酸素の環境を利用して、すべての人を健康に



トップアスリートが、酸素濃度の薄い高地でトレーニングを行うことは多くの人が知っているでしょう。低酸素環境での運動が、体内でエネルギーを作り出す能力や持久力を高めるからです。しかし最近の研究で、低酸素の環境は、そこにいるだけで体重や体脂肪が減ったり、血糖値が下がったり、動脈硬化を防いだり、誰にとっても有益な健康効果がある可能性が注目されています。スポーツジム、オフィス、学校、いずれは家庭でも。低酸素環境下で生活するだけで健康になれる日は来るのでしょうか。さまざまな企業と協力しながら研究を進める後藤一成先生に聞きました。



将来はAIが低酸素メニューを提案する日が来るかもしれません

詳しい記事はWEBをご覧ください

後藤 一成 教授



「乳酸は疲労物質」はもう古い
筋肉や脳のエネルギー源
競技力アップにもつながる「乳酸」の話



普段スポーツをしない人でも「乳酸」という物質の名前は聞いたことがあるでしょう。疲労物質、あるいは筋肉痛の原因物質だと思っている人がいるかもしれません。しかし、それは大なる誤解であり、乳酸はむしろ身体や脳に良い影響を与えてくれていることが最近の研究によって明らかになってきました。

乳酸が身体に与える影響とはどのようなものなのでしょう？運動と栄養が身体へ及ぼす作用の解明を通して健康増進や競技力向上をサポートする橋本健志先生に、最新の知見を聞きました。



運動時に筋肉から出てくる乳酸は実は「万能薬」なのです

詳しい記事はWEBをご覧ください

橋本 健志 教授



あなたの“？”が世界を変える

探究心

人はなぜ健康でありたいと願うのか

人はなぜアスリートのパフォーマンスに熱狂するのか

あなた自身の「生きる」「楽しむ」を見つめ直すことからスポーツ健康科学部の学びは始まっています。

身近な生活から生まれたあなたの問いが、人類を、社会を、変えるかもしれない。

未来を創るスポーツ健康科学部の学びを紹介します。



海外の体育から考える
日本の体育の特徴とは？
開発途上国の文化・環境に応じた体育授業を
探求し、社会課題の解決にもつなげる



学校に行く機会に恵まれない児童生徒も多い開発途上国では、他教科に比べて体育は軽視されがちだといえます。しかし、体育授業には、目標を達成するためチームで協力し合ったり、本気で人を応援したり、試合の後にチームで振り返ったことを発表し合ったり、社会でも生きるさまざまな学びがあったことを、日本で教育を受けた人なら実感しているのではないのでしょうか。環境や道具の整わない開発途上国で、地域の文化や状況に合った体育科教育を行い、将来につながる子どもたちの力を伸ばすにはどうすればよいのでしょうか。カンボジアやペルーでフィールドワークを続けながら、開発途上国の体育科教育について研究する山平芳美先生に聞きました。



日本の教師研修システムで世界の授業をより良く

詳しい記事はWEBをご覧ください

山平 芳美 准教授



引っ張る？サポートする？
個人が成長し、チームとしても
高い成果を上げるためのリーダーシップとは？



スポーツ選手にとって、チームの雰囲気やチームメイトとの人間関係は、競技へのモチベーションや技術の向上、精神的安定にも関わるものではないのでしょうか。そして、それらを左右するのが、チームをリードする監督やキャプテンの存在です。

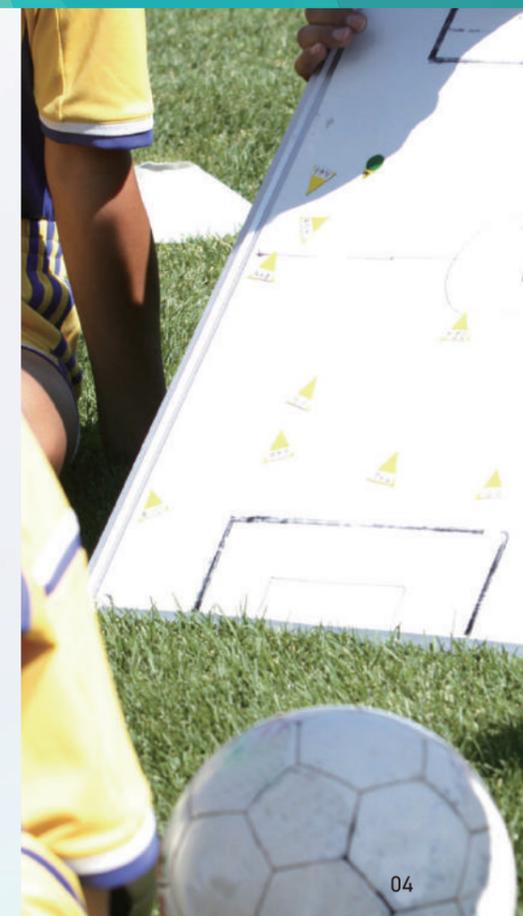
今の時代、どんなリーダーが、どんなリーダーシップを発揮することが、個人の成長を促し、チームとしての高い成果にもつなげられるのでしょうか？関係性リーダーシップとチーム力向上に関する心理学研究を行う山浦一保先生に聞きました。



リーダーシップに必要なのは「黄金の2軸」です

詳しい記事はWEBをご覧ください

山浦 一保 教授





学びと部活動を行き来することで“生きる”知識を実感 競技の先に見えてきた新たな夢

学びと人のつながりが競技生活を支える

陸上競技部に所属し、長距離パートのキャプテンを務めています。スポーツ健康科学部ではトレーニング科学のゼミに所属しており、教職課程にも取り組んでいます。忙しい日々ですが、それぞれの経験がつながり合い、自分が成長できていると実感する日々です。

1・2年生の頃は、怪我で思うように走れない時期が続きました。しかし、ゼミで得たパフォーマンス向上に関する知識や、低酸素室で行った別メニューのトレーニングなど、学びと競技が直結する環境に身を置き続けることで、少しずつ前に進むことができました。卒業研究では「足の接地」に着目し、楽に走れて故障の少ない走法についての研究に取り組んでいます。

ゼミにはアスリートの学生もいますが、そうではない学生も多く所属しています。取り扱うテーマも多岐にわたり、競技はもちろん、健康増進に役立つ内容も豊富です。睡眠や食事、貧血対策など、日々の自

己メンテナンスに欠かせない知識の多くを、仲間と学び合いながら得ています。また、ゼミ以外でも授業で学んだテーピング技術やメンタルマネジメントの知識が、チームを率いる上での支えになっています。

学びを社会に還元する「指導者」という夢

教職課程の履修と部活動の両立は簡単なことではありません。それでも教育者の立場でスポーツとの関わり方を学び、教育実習で実際に中学生と接する経験は、将来の可能性を広げるきっかけになっています。卒業後は実業団チームで陸上競技を続けることが第一目標ですが、将来的には地元に戻って地域のクラブチームで指導に携わりたいと考えています。本学では学びを自身の競技に還元するだけでなく、周囲にも還元できる力を育ててくれる学部です。誰かが怪我で苦しんだ時、そして競技に行き詰まった時、自分の走る姿と知識で支えられる存在になればいいと思っています。

土屋 舞琴さん 4年生
岡山県・興譲館高等学校卒



ゼミでの研究とアメリカ留学の夢を両立し、 アスレティックトレーナーとしての未来を切り拓く

GATプログラムに参加、夢を目指す毎日

アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場の最前線で人を支えたいという思いから、本学部に進学しました。現在は運動生理学ゼミに所属し、カフェイン摂取が筋力やバランス能力に与える影響について、生理学的な視点から研究しています。

さらに、アスレティックトレーナーの国家資格が取得できるアメリカの大学院への進学を目指し、GATプログラム※1にも参加しています。もともと英語が得意ではなかったため苦労した時期もありましたが、GATの授業や、学内の英語支援プログラム・BBP※2に参加することで、少しずつ自信をつけることができました。

アメリカで得た知識を、日本にも広げたい

資格取得後は、アメリカの大学やプロチームで経験を積むことが目標です。また将来的には、日本にもアメリカ型のアスレティックトレーナーの在り方

や必要性を広めていきたいと考えています。

この学部の魅力は、興味を持った分野を自由に追究できることにあると思います。私も入学当初は理系にばかり知識が偏っていましたが、運動生理学だけでなく、マネジメントや心理学、栄養学など、多様な分野に触れられる横断的なカリキュラムを受講したおかげで、あらためて自分のやりたいことが何なのかを実感し、留学への一歩を踏み出すことができました。

少しでも興味があるなら、まずは行動に移してみる。挑戦したいという気持ちを示せば、先生方をはじめ、必ず誰かが応援してくれます。もうすぐアメリカでの生活が始まりますが、自分の夢に直結した勉強に全力で取り組める生活が今から楽しみです。

※1 立命館大学の学士号と提携先米大学院の修士号を取得し、米国におけるアスレティックトレーナーの資格取得を目指す独自の留学プログラム
※2 国際交流や言語学習を中心としたグローバルコモンズ

長谷川 貴子さん 4年生
京都府・西京高等学校卒

SPORT SCIENCE

HEALTH AND EXERCISE SCIENCE

スポーツ健康科学部 で見つけた未来

STUDENT VOICE

“好き”を原動力に憧れのスポーツメーカーへ グローバルな体験から見えてきた自分らしい未来

開発途上国での交流体験が教えてくれた “体育”の価値

2024年度から始まったスポーツ国際開発学のゼミに所属し、初代ゼミ長を務めています。ゼミではスポーツを通じた国際協力をテーマに、実際にカンボジアを訪れて運動会を企画・実施するなどの活動を行ってきました。現地には靴も履かずに未整備のグラウンドで運動する子どもたちが多くおり、体育授業が当たり前ではない地域の現実や貧困の問題を初めて身近に感じ、大きな衝撃を受けました。

ゼミでは他にも国際的な視野を広げるチャレンジの機会を多く与えてもらっています。元々私は保健体育の先生になりたいと本学部に進学しましたが、ゼミでの経験から「スポーツには社会を変える力がある」とあらためて実感し、もっと広い視点でスポーツに関わっていきたく考えるようになりました。

スポーツ科学とマネジメントの学びを スポーツメーカーの現場へ

現在、私はアディダスの店舗でアルバイトをしており、同社の社員登用制度を通じて内定をいただくことができました。面接ではスポーツ科学の授業で学んだ運動時の体温変化の話で盛り上がり、スポーツ教育学やスポーツマネジメントの授業で得た知識も、店舗経営や人材育成に活かせるポイントとしてアピールすることができました。入社後は販売の現場で経験を積み、いずれは本社での企画やグローバル展開にも関わっていきたくと考えています。

この学部で学んでいくうえで大切だと感じるのは、完璧な答えを求めることよりも、まずは行動してみること。失敗も含めて挑戦することで、入学当時には思ってもいなかった未来が拓けると感じています。有意義な授業が多く、気さくで頼れる先生がたくさんいらっしゃるの、安心してチャレンジしてください。



森永 夢土さん 4年生
神奈川県・金沢高等学校卒

ビジネスプランコンテストで「健康経営」に挑戦 人を支える経験から自分の道が見えてきた

PBLの授業で企業の生の意見に触れる

スポーツが好きで、将来はスポーツ用品の開発に関わりたいたいという思いから、最新の設備と多様な学びがそろった本学部の進学を決めました。1年生の頃は環境に慣れることに必死で、積極的な行動ができずにいましたが、2年生以降は自分と同一ような境遇の新入生を支援するアカデミックアドバイザー※1の活動に参加。人を支える立場を経験する中で、次第にマネジメント分野への興味も芽生えていきました。

2年生のPBL(課題解決型学習)の授業では、企業向けビジネスプランを考えるコンテストに挑戦しました。私はプロジェクトリーダーを務め、「健康経営」をテーマに従業員の健康増進が仕事のパフォーマンス向上につながる仕組みを提案。実際に大手企業の関係者から実務視点でアドバイスをいただいたことは、自分のアイデアが社会とつながり、課題を解決する手応えを感じる大きな機会となりました。

「やってみよう」を示せば道は開ける

PBLの活動がきっかけで、プロジェクトをサポートしてくれた先生のスポーツマネジメントのゼミに所属しています。ゼミには関西圏以外の出身者も多く、異なる価値観を持つ学生が集まっていますが、非常に仲が良かったです。先生方もとてもフレンドリーで、私をオープンキャンパスで行う模擬授業のファシリテーターとして誘ってくださるなど、学生の挑戦を後押ししてくれる姿勢を常々感じています。

この学部には、自分のやりたいことと真剣に向き合う仲間がたくさんいます。私自身、まだ将来のゴールは明確には見えていませんが、「やってみよう」と思うことに挑戦し続けてきた経験が、自分の力になっていると実感しています。迷っていても、動いてみることで道は開けていく。それがこの学部の魅力だと思います

※1 先輩学生が1年生の学習支援を実施する学部独自の学生団体



湯浅 謙太郎さん 3年生
大阪府・大阪国際高等学校卒

SPORT PEDAGOGY

SPORT MANAGEMENT

「理論と実践」の学びを通じて、 社会で活躍するための基礎力を養成する

特色ある学び・プログラム

PBL 科目

自分のテーマでスポーツ健康科学する

PBLは、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で活用し、課題解決に挑戦する授業です。2回生の期間を通じ、スポーツ健康科学のテーマで自分たちのプロジェクト活動をつくり上げていきます。実際のスポーツ競技のパフォーマンス分析や健康指導に関わるアセスメント、運動実施に伴う生理応答や運動と認知機能の関係、子どもたちにスポーツを教えるプロジェクト、スポーツチームの広報企画やチーム・マネジメントを実践するプロジェクトなど、各自の関心のあるテーマを突き詰め、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。さらに、このプロジェクトの経験を3・4回生の専門演習（ゼミ）・卒業研究に結実させていくことができます。



【2024年度プロジェクト抜粋】

ビジネスプランコンテストに挑戦/草津市教育委員会_小中学校体力向上プロジェクト/鳥根県隠岐島児童・生徒スポーツ促進プロジェクト/東レアローズ(SVリーグ)ホーム戦PR/「大学スポーツを応援する文化」の醸成・促進と観戦者増大プロジェクト/いい(e)ヘルススポーツを考えよう!/スポーツを通じて世界の輪を広げよう!/スポーツ×VR/立命館アジア太平洋大学(APU)のウェルビーイングを実現しよう/従業員の健康増進をスポーツ健康科学で解決しよう/スポーツ心理学の理論と実践知を活用したニーズとミッションのサービス化に挑戦/地域スポーツ科学センターを利用するアスリート・一般の方向けの体力向上プロジェクト/運動トレーニングによる認知症予防/国スポ障スポ滋賞2025に捕食ブースを作ろう/イオンモールで自然に健康になれるプロジェクト/近畿健康管理センター〜 KKCクリニックフェスタへの広報/企画/筋力トレーニングのノウハウを伝えるSNSの運営/筋肉が喜ぶ食事メニュー作成/スポーツ動作の面白さを動画でプロモーション! 他

系統的なカリキュラムで低回生時には基礎的学力を鍛えるだけでなく、1回生秋学期より専門的な科目を学び始め、スポーツ健康科学部の総合的・学際的な理解を深めます。2回生ではPBL（課題解決型学習）科目で実践力と主体性を磨きます。

4つの領域（スポーツサイエンス領域・健康運動科学領域・スポーツ教育学領域・スポーツマネジメント領域）からなる領域科目を横断的に学び、「理論」と「実践」の学びを応用し「分野を超えた挑戦」を実践します。3回生からはゼミ（専門演習）に所属し、スポーツ健康科学のテーマを探求し、資格取得などにも挑戦しながら、卒業時には全員が4年間の学びの成果を卒業論文にまとめます。

グローバル・アスレティックトレーニング(GAT)プログラム

立命館大学の学士号と米国大学院の修士号を取得し 米国公認アスレティックトレーナーの資格取得を目指す独自の留学プログラム

GATプログラムは、アスレティックトレーニング教育認定委員会(The Commission on Accreditation of Athletic Training Education、以下CAATE)に認可されたアスレティックトレーニング教育プログラムを保有する米国の大学院への進学・留学を積極的に支援する本学部独自の画期的なプログラムです。GATプログラムは、4回生春学期終了時まで立命館大学の卒業に必要な科目の修得を終え、夏ごろから提携先の米国大学院へ留学し、立命館大学の学士と各大学院の修士を取得することで、米国公認アスレティックトレーナーの資格認定

試験の受験資格を得る事ができるよう設計されています。最大の特徴は、立命館大学で修得した科目が各大学院進学のための先修要件として認められるということです。これにより、通常個人で留学する場合と比較して、短い期間で修士号まで取得してアスレティックトレーナーの資格認定試験の受験資格を得る事が可能です。



プロフェッショナル・キャリア形成科目

キャリア形成と学びの融合

スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身につけ、習得した知識とスキルを実践で活かします。また、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身につけ、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

WEB上に詳細情報を掲載しています

GATプログラムの詳細やアスレティックトレーナーとは何か、そしてGATプログラム卒業生のインタビュー等を紹介しています。



自然科学と社会科学を網羅した総合的な視点からスポーツと健康にアプローチします。

回生	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
セメスター	春学期		秋学期		春学期		秋学期			
学びの流れ	将来へ向けて視野を広げ、経験する		「進路」へのイメージを掴む		進路選択へ向けてキャリアを考える		キャリア形成の確立・研究成果の発信			
基礎科目	外国語科目		英語科目 (Project)1 英語科目 (Skill Workshop)1		英語科目 (Project)2 英語科目 (Skill Workshop)2		英語科目 (Project)3 英語科目 (Skill Workshop)3		英語科目 (Project)4 英語科目 (Skill Workshop)4	
	基礎科目	講義	スポーツ健康科学原論 ヒト・ひとの倫理と哲学 身体の構造と働き ヘルスプロモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)	スポーツ健康科学とデータサイエンス スポーツ健康科学と未来						
基礎科目		演習	基礎演習 I	基礎演習 II						
	専門科目	スポーツサイエンス領域		スポーツサイエンス概論	バイオメカニクス論	スポーツ生理・生化学				
健康運動科学領域			健康運動科学概論	健康運動栄養・生理学	運動・栄養処方論					
スポーツ教育学領域			スポーツ教育学概論	インクルーシブ体育・スポーツ論	スポーツコーチング論					
スポーツマネジメント領域			スポーツマネジメント概論	組織心理学	ビジネス戦略論					
融合科目	演習									
	領域融合									
プロフェッショナル・キャリア形成科目	簿記入門		PBL I		PBL II					
	簿記入門		スポーツ健康科学セミナー インターンシップ(国内・海外) サービスマスター クリニックATインターンシップ (国内・海外)		エクササイズプログラミング 実習 I					
						トレーニング科学 パフォーマンス測定評価方法論		スポーツ情報科学		
						健康運動評価方法論 スポーツ医学		生活習慣病論		
						スポーツ栄養教育学 スポーツ心理学		スポーツ教育実践学		
						マーケティング論 リサーチメソッド		ソーシャルインノベーション論		
						専門演習 I		専門演習 II		
						専門演習 III		専門演習 IV 卒業論文		
						学校保健学 エクササイズプログラミング実習 II スポーツ指導実習A(球技:ゴール型) スポーツ指導実習A(球技:ネット型) スポーツ指導実習A(武術) スポーツ指導実習B(器械運動) スポーツ指導実習B(陸上競技) スポーツ指導実習B(水泳) スポーツ指導実習B(ダンス) インクルーシブ体育・スポーツ実習 インターンシップ(健康運動指導士)				

※正式な科目区分・科目名ではなく、分かりやすい名称に置き換えて表記している場合があります。内容は予定であり変更の可能性があります。

※上記の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目(教養科目)を多数履修することができます。

トップレベルの教員陣が、高度な教育・研究活動を展開

高度な研究実績を持ち、国内外においてスポーツ健康科学分野をリードする教員陣が専門分野の域を超えて有機的に連携し、高度な教育・研究を実践しています。

スポーツサイエンス

Close Up!

長野 明紀 教授
【専門分野】スポーツサイバネティクス・スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】人体の運動制御のメカニズムに関する研究、運動機能向上のための工学的支援

家光 素行 教授
【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】運動および栄養摂取が競技力や健康に及ぼす効果と機序に関する研究

伊坂 忠夫 教授
【専門分野】応用バイオメカニクス・スポーツ科学
【研究テーマ】スポーツ競技力ならびに日常生活を高めるための応用バイオメカニクス

後藤 一成 教授
【専門分野】トレーニング科学
【研究テーマ】競技力向上および健康増進のためのトレーニングやコンディショニングに関する研究

塩澤 成弘 教授
【専門分野】生体医工学・スポーツ工学
【研究テーマ】スポーツ・健康・医療分野の生体計測センサ/デバイスに関する研究

藤田 聡 教授
【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】効率的な骨格筋肥大を目的とした運動と栄養摂取に関する研究

菅 唯志 准教授
【専門分野】運動生理学・スポーツ科学
【研究テーマ】ヒトの身心パフォーマンスを高める総合型スポーツ健康科学研究

身体運動の原理原則の解明
人体の運動力学、バイオメカニクスを軸に、運動の原理原則の解明に力を入れています。経験的に良いとされる身体の使い方、また科学的に立証されていないものは多くあります。これはアスリートによるスポーツの動作にも、一般の人による日常生活動作にも当てはまります。近年の計測機器や解析技術の進化により、分析できる対象や動作が広がってきました。
現在、最先端の動作解析技術、コンピューターシミュレーション技術、仮想現実・拡張現実の技術を使って研究を推進しています。アスリートや一般の人の運動機能と運動効率を高め、競技成績や健康状態の向上に貢献することを目指しています。

健康運動科学

Close Up!

村上 晴香 教授
【専門分野】行動生理学、運動遺伝学
【研究テーマ】運動行動発現を促した健康づくりに関する研究

真田 樹義 教授
【専門分野】応用健康科学・運動処方
【研究テーマ】生活習慣病および介護予防のための運動処方研究、異分野の連携がもたらす価値創造

篠原 靖司 教授
【専門分野】スポーツ医学・整形科学
【研究テーマ】機能解剖学的アプローチによるスポーツ傷害に関する研究

清家 理 教授
【専門分野】応用健康科学・社会医学・老年学・医療福祉学
【研究テーマ】1.認知症の人と家族に対する非薬物介入と効果検証(認知症や抑うつ進行予防) 2.Community design for Diversity & Inclusion and Well-being

田畑 泉 教授
【専門分野】スポーツ健康科学
【研究テーマ】身体活動・運動による生活習慣病予防に関する研究、競技力向上のための高強度・短時間・電欠のトレーニングに関する研究

橋本 健志 教授
【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】競技力向上や健康増進のための有効な運動・栄養処方の開発に関する研究

眞下 苑子 准教授
【専門分野】アスレティックトレーニング学
【研究テーマ】スポーツ傷害の予防とパフォーマンス向上

岡松 秀房 准教授
【専門分野】ウェルネス・スポーツ傷害
【研究テーマ】学生アスリートのウェルネス変動に伴うスポーツ傷害に関する研究

運動行動の誘発メカニズムを知ることで運動を介した健康づくりの推進を
私たちは、「運動が健康に良い」と認識しているながらも、それを行動として実行することや、実行できたとしても継続することには困難さを感じます。ヒトが運動行動を起こす場合、運動が「楽しい」「心地よい」といった内発的要因に加え、「運動を行うことで痩せる」「運動は健康に良い」といった外発的要因などが関与します。この際、ヒトの生体内では、分子生物学的・生理学的なメカニズムの下、「運動行動」が認識・決定・実行されます。
人々が困難さを感じる「運動行動」について、その誘発メカニズムを解き明かすことで、誘発・継続させるシステムへと繋げ、人々の人生の基盤となる健康づくりへの貢献を目指しています。

スポーツ教育学

Close Up!

海老 久美子 教授
【専門分野】スポーツ栄養学・栄養教育学
【研究テーマ】栄養的支援と良教育の効果についての研究

上田 恵嗣 教授
【専門分野】発達発達学・スポーツ教育学
【研究テーマ】子どもの身体と運動の発達と体育・スポーツ指導に関する研究

大友 智 教授
【専門分野】スポーツ教育学・体育科教育学
【研究テーマ】スポーツ指導場面・体育学習場面における教育・学習に関する研究

岡本 直輝 教授
【専門分野】コーチング
【研究テーマ】競技力向上に関するコーチング研究

永浜 明子 教授
【専門分野】臨床哲学、インクルーシブ体育・スポーツ、アダプテッド体育・スポーツ、学校保健学
【研究テーマ】「ひと」についての問い、インクルーシブおよびアダプテッド体育・スポーツのあり方、運動が活手な児童・生徒の体育づくり

河井 亨 准教授
【専門分野】大学教育学・学習論・キャリア形成
【研究テーマ】「大学生の学びと成長」に関する理論的・実証的・実践的研究

世塚 育子 准教授
【専門分野】スポーツ心理学・スポーツ教育学
【研究テーマ】競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの効果およびスポーツにおける対人援助に関する研究

山平 芳美 准教授
【専門分野】スポーツ国際開発学・スポーツ教育学
【研究テーマ】諸外国におけるスポーツおよび体育科教育に関する研究

「食×スポーツ×地域」で、未来をおいしく豊かに
人々の豊かな食生活・食卓を探索することは、自分自身の食生活を幸せにすることにもつながります。おいしく豊かな食生活は、それぞれの地域で育まれた食文化なしには成り立ちません。例えば、高齢者のサルコペニアの予防、ジュニアアスリートの健全な成長と競技力向上などに対して、地域の食文化から持続可能な支援するための食環境整備や食品・料理の開発など、地域と連携した様々な取り組みを行っています。

スポーツマネジメント

Close Up!

長積 仁 教授
【専門分野】スポーツマネジメント
【研究テーマ】スポーツとまちづくり、組織に対する支援の波及性

種子田 穰 教授
【専門分野】スポーツマネジメント
【研究テーマ】プロスポーツビジネスモデルの研究

山浦 一保 教授
【専門分野】産業・組織心理学
【研究テーマ】信頼ベースのリーダーシップとチーム力向上に関する心理学的研究

平井 祐理 准教授
【専門分野】経営学
【研究テーマ】企業におけるデータ利活用に関する研究、オープンイノベーションに関する研究

安 邦 講師
【専門分野】スポーツマーケティング・スポーツツーリズム
【研究テーマ】スポーツ消費者の経験のビジネスおよび社会的アウトカムに関する研究

祐伯 敦史 教授
【専門分野】神経言語学
【研究テーマ】言語理解や習得のプロセスについて研究、解明する

峰見 一輝 講師
【専門分野】心理言語学
【研究テーマ】ヒトの言語理解メカニズムの解明

池本 優 特任助教
【専門分野】心理言語学
【研究テーマ】人がどのように言葉を理解しているのか

スポーツが有する価値をまちづくりに活かす
人々の身体と英知が奏でるスポーツという行為が、スポーツをする人のみならず、それを観戦する多くの人たちを魅了していることは、いうまでもありません。またスポーツが有するポテンシャルは、関係が希薄化する地域社会の人と人のつながりを再構築したり、過疎化しつつあるまちの魅力アップさせたりするなど、社会問題の解決やまちづくりにまで及びます。その一方で、スポーツやまちづくりは、人々の生活と密接にかかわりを持っているため、スポーツ団体だけでなく、行政、民間企業などが適切な政策や支援を施す必要があります。ひとつひとつ、ひとつとまち、まちとまちの関係をいかにデザインするかというマネジメントについて研究しています。

英語科目担当教員

草川 祐生 助教
【専門分野】健康・スポーツ科学、人間工学
【研究テーマ】神経科学および形態学的観点からヒト足指が果たす機能的役割を探索

塩澤 華奈 助教
【専門分野】運動生理学
【研究テーマ】運動時の呼吸循環調節メカニズムの解明

田中 貴大 助教
【専門分野】スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】泳動作の推進メカニズム解明を目的としたバイオメカニクス・流体力学研究

長谷川 夏輝 助教
【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】生活習慣病に対する運動効果およびメカニズム解明に関する研究

前大 純朗 助教
【専門分野】トレーニング科学・神経生理学
【研究テーマ】筋力トレーニングに伴う中枢神経系および骨格筋の適応

堀内 元 特任助教
【専門分野】スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】野球のバッティングにおけるバットのスイングスピードとバットコントロールに関連する要因の解明

一瀬 星空 助手
【専門分野】トレーニング科学・運動生理学
【研究テーマ】運動・トレーニングによる骨格筋および非収縮性組織の可塑性

森 理紗子 助手
【専門分野】運動生理・生化学、分子栄養学
【研究テーマ】運動や栄養素が運動機能調節するメカニズムの解明

教員の経歴・受賞歴等 (抜粋)

- 〈家光素行〉●日本スポーツ協会 秋父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞(2020)
- 〈伊坂忠夫〉●日本バイオメカニクス学会 学会賞(2024)
- 〈岡本直輝〉●日本ハンドボール学会 日本ハンドボール学会賞(男子ハンドボール日本代表の国際競技力向上に向けての課題：東京2020オリンピックに向けた取り組みを選手の視点から考察して)(2025)
- 〈田畑泉〉●日本スポーツ協会 秋父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞(2020)
- 〈長野明紀〉●日本バイオメカニクス学会 学会賞(2022)
- 〈山浦一保〉●公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞(職場における妬み感情の緩和に向けた実証的試み—上司との関係性、感謝の気持ちで過ごす1週間の力は妬みの増幅を食い止める?)(2022)
- 〈清家理〉●Geriatric & Gerontology International Best Article Award (2022)
- 〈塩澤華奈〉●第28回日本体育学会 東海地方学術集会 学術奨励賞(2024)

教員情報(詳細)はこちら!

教員の研究内容等詳しい情報は、「**スポーツ健康科学部ウェブサイト**」

スポーツ健康科学部 立命館

教員の執筆論文・書籍 (抜粋)

- 〈上田恵嗣〉●The Motor Engram of Functional Connectivity Generated by Acute Whole-Body Dynamic Balance Training. *Medicine & Science in Sports & Exercise* 54(4):p 598-608, 2022
- 〈海老久美子〉●選手が指導者から受けたと認知した米飯摂取指示の受け止め方及び引退後の食事摂取の検討：中学軟式野球クラブチーム引退後の3年生を対象として。京都市立大学研究 (39),53-60頁, 2023
- 〈後藤一成〉●Inter-individual variation in SpO2 during endurance exercise in hypoxia does not correlate with endocrine and angiogenic growth factor responses. *Physiological Reports*, 13,e70221, 2025
- 〈真田樹義〉●Differences in sarcopenia indices in elderly Japanese women and their relationships with obesity classified according to waist circumference, BML and body fat percentage. *J Physiol Anthropol*, 43(1),22, 2024
- 〈塩澤成弘〉●バイオメカニクスと運動工学:運動機構と神経制御(共著/コロナ社), 2024
- 〈藤原靖司〉●アキレス腱症再発予防のためのリハビリテーション(共著/文光堂), 2023
- 〈種子田穰〉●HOKKAIDO BALLPARK F. VILLAGEにみるイノベーションと北海道日本ハムファイターズの企業家精神, 立命館経営学, 62(6),123-142頁, 2024
- 〈田畑泉〉●アスリートのためのタバトレーニング. ISBN978-4-583-11738-6, ベースボールマガジン社, 東京, 2025
- 〈長積仁〉●部活動の未来を拓く協力のテクノロジー(共著/晃洋書房), 2023
- 〈永浜明子〉●永浜明子・鹿屋友志・Aju:発達障がいのある児童生徒の体育の授業参加に関する一考察, スポーツ健康科学総合研究所紀要第2巻, 39-47,2025
- 〈橋本健志〉●Heart Rate Variability: A Psychophysiological Factor Related to Both Regular Physical Activity and Eudaimonic Well-Being Among Young Adults, *Brain and Behavior*, 15(1),e70284, 2025
- 〈藤田聡〉●Co-ingestion of cluster dextrin carbohydrate does not increase exogenous protein-derived amino acid release or myofibrillar protein synthesis following a whole-body resistance exercise in moderately trained younger males: a double-blinded randomized controlled crossover trial. *European Journal of Nutrition*, 61,2475-2491頁, 2022
- 〈村上晴香〉●健康・栄養系の運動生理学(栄養・スポーツ系の運動生理学 改訂第2版) 共著, 2024
- 〈祐伯敦史〉●Uncovering the essence of moving experiences in Japanese culture: Development and validation of a Kando Reaction Scale. *PLoS One*, 19(12), 2024
- 〈藤原靖司〉●アキレス腱症再発予防のためのリハビリテーション(共著/文光堂), 2023
- 〈種子田穰〉●HOKKAIDO BALLPARK F. VILLAGEにみるイノベーションと北海道日本ハムファイターズの企業家精神, 立命館経営学, 62(6),123-142頁, 2024
- 〈田畑泉〉●アスリートのためのタバトレーニング. ISBN978-4-583-11738-6, ベースボールマガジン社, 東京, 2025
- 〈長積仁〉●部活動の未来を拓く協力のテクノロジー(共著/晃洋書房), 2023
- 〈永浜明子〉●永浜明子・鹿屋友志・Aju:発達障がいのある児童生徒の体育の授業参加に関する一考察, スポーツ健康科学総合研究所紀要第2巻, 39-47,2025
- 〈橋本健志〉●Heart Rate Variability: A Psychophysiological Factor Related to Both Regular Physical Activity and Eudaimonic Well-Being Among Young Adults, *Brain and Behavior*, 15(1),e70284, 2025
- 〈藤田聡〉●Co-ingestion of cluster dextrin carbohydrate does not increase exogenous protein-derived amino acid release or myofibrillar protein synthesis following a whole-body resistance exercise in moderately trained younger males: a double-blinded randomized controlled crossover trial. *European Journal of Nutrition*, 61,2475-2491頁, 2022
- 〈村上晴香〉●健康・栄養系の運動生理学(栄養・スポーツ系の運動生理学 改訂第2版) 共著, 2024
- 〈祐伯敦史〉●Uncovering the essence of moving experiences in Japanese culture: Development and validation of a Kando Reaction Scale. *PLoS One*, 19(12), 2024
- 〈藤原靖司〉●アキレス腱症再発予防のためのリハビリテーション(共著/文光堂), 2023
- 〈種子田穰〉●HOKKAIDO BALLPARK F. VILLAGEにみるイノベーションと北海道日本ハムファイターズの企業家精神, 立命館経営学, 62(6),123-142頁, 2024
- 〈田畑泉〉●アスリートのためのタバトレーニング. ISBN978-4-583-11738-6, ベースボールマガジン社, 東京, 2025
- 〈長積仁〉●部活動の未来を拓く協力のテクノロジー(共著/晃洋書房), 2023
- 〈永浜明子〉●永浜明子・鹿屋友志・Aju:発達障がいのある児童生徒の体育の授業参加に関する一考察, スポーツ健康科学総合研究所紀要第2巻, 39-47,2025
- Junichi Hirono, Takaaki Hogan, Naruto Yoshida, Injury data collection and utilisation practices in university sports teams: a cross-sectional study. *Physical Therapy in Sport*, 64, 55-61,2023
- 〈平井祐理〉●デジタル時代における組織能力とその醸成～組織プロセスの中でのデータの価値転換～, 経営分析, 209,44-69頁, 2024
- 〈山平芳美〉●A case study on a physical education lesson study trial workshop in Cambodia. *Journal of Sport and Development*, 4, 21-30, 2025
- 〈安邦〉●A study of event brand image, destination image, event, and destination loyalty among international sport tourists. *European Sport Management Quarterly*, 24(2),345-363頁, 2024
- 〈峰見一輝〉●第二言語研究の思考法：認知システムの研究には何が必要か, 111-140頁, 2023
- 〈田中貴大〉●Propulsive and braking contribution of the lower limbs, trunk, and upper limbs during underwater undulatory swimming calculated from vortices distribution: A simulation study. *Journal of Biomechanics*, 112551-112551頁, 2025
- 〈前大純朗〉●Greater motor unit discharge rate during rapid contractions in chronically strength-trained individuals. *Journal of neurophysiology*, 2024
- 〈一瀬星空〉●Age- and sex-dependence of muscle quality: Influence of intramuscular non-contractile tissues. *Experimental Gerontology*, 2024
- 〈清家理〉●清家理, 矢野裕一朗, 森永貴彦, 世代別に見るLGBTQIA+の健康課題. 医学のおゆみ293(2), 170-174,2025

社会人基礎力とグローバルな視野を 備えた人材には、 多様な進路が広がっている



山口 美優子 さん

ダイキン工業株式会社
特機事業部 環境医療機器部 営業グループ
2023年3月卒業

低酸素トレーニングを武器に社会へ 大学と連携し「健康」を広げる営業職として活躍

ダイキン工業で高地空間でのトレーニングが再現できる「低酸素システム」の営業を担当しています。取引先にはフィットネスクラブや実業団のスポーツチームなどがあり、低酸素トレーニングによる競技力向上や健康増進につながる効果を科学的に伝えることが求められます。かなり専門性の高い分野ではありますが、スポーツ健康科学部で培った専門知識は私の大きな後ろ盾になっており、無事契約につながった時はやりがいを感じます。

営業先がアスリートである場合、自分も陸上競技をしていたことや、大学時代に低酸素トレーニングを研究してきた経験が信頼につながっていると感じます。ゼミでの実験はもちろん、プレゼンテーションや資料作成のスキル、部活で培った体力やメンタルの強さなど、学部での経験すべてが今の仕事に直結しています。

また、ダイキン工業と所属していたゼミの教員が低酸素に関する共同実験を行っており、そのご縁もあって今も学部を訪れる機会があります。学生時代の恩師とのつながりが思わぬかたちで続いているのは、うれしい驚きでもあります。

アカデミックな学びと並んで、仲間との関わりから得た経験も大きな財産です。新入生サポート団体での活動やグループワークを通じて、個性豊かな仲間たちと支え合いながら学んだ日々は、社会に出てからのコミュニケーションや人間関係づくりにも大きく役立っています。

スポーツ健康科学部で得た専門性と“人間力”、そしてあきらめず挑戦し続けた経験が、今の自分の支えになっています。

卒業生の声
VOICE01



中野 秀紀 さん

森永製菓株式会社
マーケティング本部 健康マーケティング部
2017年3月卒業

スポーツと健康の知識を武器に 食の力で人の心と身体を支えるブランドメーカーへ

森永製菓のマーケティング本部に所属し、「inゼリー」ブランドの企画・運営を担当しています。商品開発からプロモーションの立案、アスリートやチームとの連携まで、多角的にブランドを支える仕事です。

スポーツ健康科学部には体育教師を目指して進学しました。しかし学部で学ぶうちに、食や健康の重要性に惹かれ、次第に食品業界への関心が高まってきました。また、飲食のアルバイトを経験し、「食」が人の気持ちを動かす力を実感したことが、今のキャリアに繋がっています。

在学中は産業・組織心理学のゼミに所属し、リーダーシップについて研究。少人数のゼミで意見を交わしながら卒業論文を仕上げた経験は、社内外の関係者と協働する現在の業務に

活かされています。また、栄養学やスポーツマネジメントなどの授業で身につけた知識も、inゼリーの開発やマーケティングを行う上で役立っています。

この学部の魅力は、学びの幅の広さと、人との距離の近さ。ゼミや自治会活動を通じて多くの人と関わり、気が付けば大学入学前よりも意欲的にコミュニケーションを取れるようになりました。また、卒業後も在学生向けのイベントに参加させていただくなど、関係は今も深いままです。

この学部で得た知識や経験は、社会に出てからこそ、より一層力を発揮すると感じています。気さくな仲間と、最先端の設備がそろった学部で過ごした4年間は、自分の土台をつくる大切な時間だったと、今あらためて感じています。

卒業生の声
VOICE02

総合的・学際的な学びを通し、専門知識とその関連領域の幅広い基礎知識を養い、理論と実践の融合したカリキュラムで身につけた社会人基礎力やグローバルな視野を備えた人材は、さまざまな分野での活躍が期待されます。



© 2022 BenVanHouten

山本 和広 さん

シアトル・マリナーズ
マニュアルセラピスト
2019年3月卒業

異色の経歴を生かし、メジャーリーグで 野球選手のサポートに励む

選手を最も近くで支えられるATC(米国公認アスレティックトレーナー)に興味を持ち、GATプログラム※に参加しました。通常の授業に加え、アスレティックトレーナーに関する知識を英語で学ぶのは大変でしたが、慣れてくると非常に楽しかったです。3回生の時には留学生専用のBKC国際寮で住み込みのスタッフとして働き、自らを英語漬けの環境に置くことで海外生活のイメージを膨らませていきました。

2018年に渡米し、その2年後にATCの資格を取得。サーカスをはじめとするパフォーマンスのサポートに興味があったため、スポーツ現場以外にもBall State Universityのダ

ンス演劇学科などで経験を積みました。

現在はシアトル・マリナーズでマニュアルセラピストとして働いています。パフォーマンスのサポートを経験したことで、ほかのトレーナーにはない視点で選手をケアできることが私の強みです。スケジュールも、求められる成果も、非常にタフな現場ですが、その中で選手が好成績を残せるよう最善を尽くし、チームの勝利に貢献することが今の私の目標です。

この学部は自分の積極性次第で可能性が広がっていきます。ぜひ皆さんもやりたいことにチャレンジしてみてください。

※ATCの資格取得を支援する立命館大学スポーツ健康科学部独自のプログラム(P.8参照)

卒業生の声
VOICE03

取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- 健康運動指導士※1
- 健康運動実践指導者※1
- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※1
- 初級バラスポーツ指導員※1
- トレーニング指導者※1
- BOC-ATC(the BOC credential of "Athletic Trainer Certified": 米国公認アスレティックトレーナー)※2

※1 申請資格、または認定試験の受験資格が得られます。

※2 受験資格を得るため、米国提携先大学院へ進学し、修士号を取得する必要があります。

就職分野と実績

スポーツ関連企業

(株)アシックス・美津濃(株)・グンゼスポーツ(株)・(株)ゴールドウィン・ゼビオ(株)・セントラルスポーツ(株)・つるや(株)・デサントジャパン(株)・(株)ドーム・HOS(株)・(株)ビバ・山本光学(株)・(株)楽天野球団・(株)モンベル・プリチストンスポーツ(株) 他

教職員・公務員

国家公務員一般職・地方公務員(上級職)・京都府教育委員会(小学校・中学校)・京都市教育委員会(小学校)・長浜市役所・高知県教育委員会(中学校)・滋賀県教育委員会(小学校)・守口市役所・滋賀県警察本部・三田市役所・京都府庁・警視庁・東京消防庁 他

サービス

出光興産(株)・大阪ガス(株)・関西電力(株)・(株)NTTドコモ・静岡ガス(株)・北海道電力(株)・中部電力(株)・北海道旅客鉄道(株)・西日本旅客鉄道(株)・九州旅客鉄道(株)・伊藤忠商事(株)・三井物産(株)・豊田通商(株)・日本航空(株)・全日本空輸(株)・(株)オリエンタルランド・日本電気(株)・(株)野村総合研究所・(株)オービック・楽天(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本・伊藤忠食品(株)・Apple Japan合同会社・(株)リクルート 他

食品

アサヒフードアンドヘルスケア(株)・エスビー食品(株)・カゴメ(株)・(株)ブルボン・(株)ヤクルト本社・ハウスウェルネスフーズ(株)・キリン(株)・サントリーホールディングス(株)・味の素(株)・日清食品(株)・伊藤ハム(株)・アサヒビール(株)・ハウス食品(株)・山崎製パン(株)・(株)ロッテ 他

医療

武田薬品工業(株)・第一三共(株)・アステラス製薬(株)・塩野義製薬(株)・シスメックス(株)・ゼリア新薬工業(株)・東レメディカル(株)・日本赤十字社・ロート製薬(株)・久光製薬(株)・大塚製薬(株)・Meiji Seikaファルマ(株)・小林製薬(株)・旭化成(株) 他

メーカー

パナソニック(株)・キヤノン(株)・テルモ(株)・(株)豊田自動織機・住友電気工業(株)・(株)LIXIL・(株)ワコール・日本たばこ産業(株)・京セラ(株)・豊田合成(株)・(株)ファーストリテイリング・帝人(株)・富士通(株)・花王(株)・オムロン(株)・日本精工(株)・マツダ(株)・積水化学工業(株)・(株)村田製作所・トヨタ自動車(株) 他

金融・保険

(株)香川銀行・(株)京都銀行・京都信用金庫・京都中央信用金庫・(株)滋賀銀行・住友生命保険(相)・第一生命保険(株)・日本生命保険(相)・三井住友海上火災保険(株)・(株)三井住友銀行・明治安田生命保険(相)・(株)三重銀行・(株)三菱東京UFJ銀行・(株)みずほフィナンシャルグループ・野村證券(株) 他

マスコミ

(株)ADKホールディングス・(株)エフエム東京・(株)京都放送・(株)TBSテレビ・(株)ディリースポーツ・東映(株)・東海テレビ放送(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本・(株)博報堂プロダクツ・びわ湖放送(株)・(株)フジテレビジョン・(株)USEN 他

大学院進学

スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程

卒業生インタビュー



スポーツだけじゃない。卒業後の進路。

2025年にスポーツ健康科学部は15周年を迎え、学び成長した卒業生が様々な分野で活躍しています。
<https://www.ritsumeik.ac.jp/shs2022/activities/>

最先端の教育・研究環境が、 高度で充実した学びをサポート

最先端の教育・研究を実現するため、高度な研究に欠かせない充実した施設・設備を保有しています。興味のある研究を深めるために、学部生のうちから、このような環境を存分に利用することができます。



1 スポーツパフォーマンス測定室

野球やゴルフ、ランニングなどのスポーツ動作をはじめ、あらゆる動作の計測・解析が行える多目的スペース。複数の「ハイスピードカメラ」を設置しており、投げたボールの回転をスローモーションで観察するといった相対分析もできます。

2 エネルギー代謝測定室

「壁面のセンサ」で人間の1日の正確なエネルギー消費量を測定することが可能です。

3 低酸素実験室

低酸素環境下でのトレーニングが身体に与える影響を解析することができます。

4 栄養調理実習室

システムキッチンや調理器具が整っており、競技力向上につながるメニューや栄養価の高い料理などを実際に調理することが可能です。またダイニング部分は、子どもから高齢者までを対象とした「食育」を実践する場として活用します。

5 スポーツ健康指導実験室

筋パワーや持久力の測定評価ができる「パフォーマンス測定システム」や、人間の体型を3次元で瞬時に解析する「3次元人体計測システム」など、多様な機器を設置しています。

6 スポーツ健康 commons

通年使用可能な25m公認プール(温水)7レーン、50mの屋外プール4レーンを設置した体育館は、実習科目や測定実験等で利用することが可能です。

7 トレーニング指導実習室

トップアスリートの筋力増加を想定した各種「トレーニングマシン」や「フリーウエイト機器」を完備。現場におけるトレーニング技術の習得をめざします。

8 MRシステム・骨密度測定装置

人間の体内の状態や脳内の働きを調べることができる「MRシステム」、骨密度や体脂肪、除脂肪量などの体組成を推定する「骨密度測定装置」を設置。これらを利用して、スポーツ健康科学分野に関連した高度な研究ができます。日本のスポーツ健康科学関連の施設では、国立スポーツ科学センターに並び、最新鋭の設備となります。

学部生のうちから最新鋭の設備を使用できます

奨学金 学生を全面的にサポートする充実の奨学金制度

立命館大学では豊富な独自奨学金を設け、学業はもちろん、スポーツ活動、留学など、自分の目標にチャレンジする学生を幅広くサポートしています。本学独自の給付制奨学金のほか、日本学生支援機構や公的機関・民間団体などの各種奨学金制度が充実。

→ 詳しくは立命館大学入試情報サイトをご覧ください。 [立命館](#) [入試情報サイト](#) [検索](#)